

《新会員のひと言》



遠く美しい憧れの国ポーランド

小田 晃孝

ポーランドという国は私にとっては精神的にも地理的にもとても遠い国でした。なんとなくどこかで聞かされた、時代の波に飲み込まれた不幸な歴史と、放射線研究でノーベル賞を受賞した物理化学者キュリー夫人くらいしか浮かんでこないという乏しい知識の上に、冷戦時代の閉ざされた東欧の国という暗いイメージを勝手に塗り重ねて、特別な興味を持つことなくこれまで暮らしてきたという訳です。

しかし、この会に誘っていただき、画面に映し出された美しい建物や民族衣装、自然の風景を見て、また小学校の時からよく知っている大音楽家ショパンが、てっきりオーストリア出身だと思い違っていたのが、ポーランド出身だと聞いて驚き、さらにその後、大好きな女優ジュリエット・ビノシェが主演したことで映画館で見てその映像美に感動し好きな映画ベスト3に入った「トリコロール／青の愛」の監督であるクシシュトフ・キェシロフスキが、生粋のフランス人ではなく実はポーランド出身と聞いたことで一気に興味津々の国となり、ぜひ死ぬまでに一度は訪れたいと思うようになりました。

そしてフィンランドに新千歳空港から直行便が飛び始めたと聞いたので、機会を捉えて少し長い休暇が取ればポーランドの自然や文化、人々に触れる旅を試してみたいと思いますが、そこは貧乏暇なしの私ですので、実際の訪問は遠い話と思われ、

この会を通じてその一端に触れることができると望んでおります。

(おだ・あきたか)

ポーランドへの旅

中條 峰人



はじめまして。昨年北海道ポーランド文化協会に入会しました。会員の一人としてポーランド文化・歴史に触れる事で知識や交友関係を深める事が出来れば僕としては幸いです。

ポーランドに関わるきっかけは卒業旅行のアウトシュビッツでした。そこにはホロコーストや戦争の惨劇を伝える為に数多くの遺品や写真が展示されていました。戦争を知らない年代である僕達だからこそ歴史を学ぶ意味が有り、同じ過ちを繰り返してはならない心構えを持ち続ける大切さを知りました。

あまりの惨い写真に言葉も出ず、ドイツが犯した過ちについても考えさせられましたが、戦時中に同じ過ちを犯し、アジア諸国に大きな苦しみを与えた日本の歴史も直視すれば、我々日本人も人殺しの子孫である事は間違いないのです。

このような歴史的負の遺産は、後世にも残し続けるべきであると思っています。

短いポーランド旅行ではありましたが、初めての一人海外旅行でもあり、僕の人生にとって大きな心の財産にもなりました。

ポーランドに関しては、未だ解らない事が殆どですが、会員の皆様との交流を通して、多くの事を学びたいと思っています。よろしくお願いします。

(なかじょう・みねと)

ズビグニェフ・ヘルベルト詩集 『我思う氏 Pan Cogito』より(栗原成郎訳)

Pan Cogito a ruch myśli

我思う氏(パン・コギト)と思考往来

思考たちが頭の中を行き来すると
常套句が口に出る

常套句が
思考の往来を過大評価する

思考たちの大部分は
身じろぎもせず立ちつくす



荒涼とした風景のまん中で
灰色の丘陵のまん中で
枯れた樹々のまん中で

ときおり それらは他人の思考の
急流にたどり着き
その岸辺に佇む
一本脚で

腹をすかした青鷺(あおさぎ)のように

悲しげに
涸れた水源を回想する
ぐるぐる回って
穀粒を探し求める